

児童養護施設等の退所者を支援する事業



－おかえり（奈良県）－

特定非営利活動法人おかえりは、奈良県において児童養護施設や里親家庭で暮らす子供や、そこを巣立った人たちの居場所づくりを行っています。

基金を活用した事業では、当団体の敷地内の手作りルーム「life café」を通じて、延べ254人に相談支援や居場所づくりを提供しました。

子供の未来は日本の未来

今を、そして巣立ったあとも安心して暮らせるように

おかえりは、「児童養護施設等（以下、施設等）や里親家庭を巣立った人たちが自立し、安心して暮らせる社会づくりに貢献する」という理念の下、施設や里親家庭等で暮らしているときからのつながり作りや相談事業、啓発活動など、様々な活動をしています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、子供たちが児童養護施設や里親家庭を巣立ったあとも安心して生活を送れる環境を整えることに取り組みました。

具体的には「life café」にて、毎回20名ほどで、一緒にお昼ごはんを食べながら悩み事を相談したり、色々なことを話したり、施設等で暮らしているときからのつながりづくりを大切に、居場所の提供をしています。

参加してくれた人に、次のランチで食べたいものをリクエストカードに書いてもらいメニューの参考にしています。

加えて、中学生以上で希望する人には、ごはんを作るところから参加してもらい、スタッフと一緒に作り、作ったごはんを皆で一緒に食べたりしています。

施設職員や里親さんからは、

「『また、ごはんを食べに行こう』と誘いやすく、子供たちにとっても気軽に「おかえり」に足を運ぶきっかけになっていると感じる。」

などの声が聞かれ、

参加した子供たちからも、

「皆でご飯を食べることが楽しかったし、自分が作ったごはんを『おいしい!』と言ってもらえて嬉しかった。」

との声をいただきました。

おかえりは、施設や里親家庭を巣立ったあとも第二、第三の「実家」のような存在になればと考えています。

「life café」等、遂行した事業はどれも好評で、相談支援にも繋がっています。今後は、施設や里親家庭を巣立った人たちへの就労支援等にも裾野を広げ活動していきたいと思っています。

一つひとつのご縁を大切にしながら、一步一步、いまできることを精一杯務めていきたいと思っています。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他

その他、貧困の連鎖の解消につながる事業



－全国こども食堂支援センター むすびえ（東京都）－

特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえは、東京都において日本全国の子供食堂の運営基盤強化につながる支援を行っています。

基金を活用した事業では、全国325軒の子供食堂が「こども食堂ネットワーク」へ登録し、ネットワークの更なる促進や企業支援を実施しています。

子供の未来は日本の未来

にぎわいを創り、誰も取りこぼさない社会を

全国こども食堂支援センター・むすびえは、子供たち、子供食堂、子供食堂を支援してくれる人たちの3者をつなぎ、それぞれの地域で活動する子供食堂や、それを支えているネットワーク団体（中間支援団体）を支えています。

子供食堂の活動を今後どう持続可能なものにしていくかは重要なテーマです。子供の未来応援基金を活用した事業では、全国の中間支援団体の設立支援や、「こども食堂ネットワーク」への登録促進に取り組みました。

具体的には、各地域の中間支援団体がより活動しやすくなるための情報提供や、子供食堂に関する調査・研究を行い、その意義や実態を伝える等、当団体のスタッフが各地域を訪れサポートを行っています。

また、子供食堂は、まだ歴史の浅い活動です。こうした活動を通じて、すべての子供たちが利用できる地域交流拠点となるよう、全国の子供食堂への支援を行っています。その一環として実施した「全国地域ネットワーク団体交流会」。全国から100名近い子供食堂運営者等が集結しました。

この熱気溢れる交流会に参加した方々からは、

「中間支援者として、子供食堂の発展に向けた道筋が見えた。」

「全国で頑張っておられる人と出会い、自分も負けずと明日から頑張ろう！と思える貴重な時間だった。」

との声を聞くことができました。

また、こうした交流会の後も運営者同士の交流や研修、悩み相談などの伴走支援をすることで、子供食堂を続けることができる環境づくりに寄与することができると感じています。

中間支援は、直接子供たちに関わる数が少ない活動ですが、その効果の重要性は疑いありません。

このような中間支援があることにより、子供食堂を知る人が増え、また子供食堂を始めたい人たちが増え、支援する人も窓口が一本化され、その結果、子供食堂への支援が増えることにつながります。

引き続き、「子供食堂が全国どこにでもあり、みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整える」ことを目指して、子供たちの支援につなげてまいります。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他

ご寄付いただきました皆様へ



子供の未来応援基金 事業審査委員会委員長 草間 吉夫

昭和41年生まれ。家庭の事情により児童福祉施設で育つ。東北福祉大学特任教授や、厚生労働省「児童福祉施設等評価基準検討委員会」委員等を歴任。平成18年に高萩市長に就任し任期満了で退任。現在は、茨城キリスト教大学で教鞭を執る。

平成28年から「子供の未来応援基金事業審査委員会」委員長に就任。

3回目の支援事業を終えて

創意工夫に溢れた多くの事業の中から、悩みながら、しかし自信をもって選出した第1回・第2回支援の延べ165の団体。多くの子供たちに「笑顔」と「希望」の花を咲かせ、また、それを育てようとする大人や団体、自治体、企業等との「支援の輪」を確実に広げていただきました。

この流れを受け、子供たちにとって何が必要な支援なのか、委員一同真摯に考え抜いて選出することとなりました71の第3回支援団体。事業の幅が更に広がり、ご家庭や子供たちの生活を多角的にサポートする取組が増えてきたことを実感しています。本報告書では、一部の事業を抜粋してご紹介しましたが、いずれの事業も子供たちにとって素晴らしい取組であることは疑いありません。基金を通じて更に「支援の輪」を広げ、子供たちが「夢」を持ち「可能性」を伸ばせる環境が整備されていくことを確信しています。

なお、最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症は我が国に様々な面で変化をもたらしました。民間団体における

子供たちへの支援活動においても、その手法、内容に大きな変化が見られます。こうした状況の中、多くの基金支援団体が更なる創意工夫を凝らして子供たちの支援活動を継続できていること、これは、ひとえに皆様方からの御支援と子供の未来応援国民運動推進事務局の伴走支援の賜物であると考えています。

子供たちへの支援は待ったなしです。どうか引き続きの御協力をいただければ幸いです。

子供の未来応援基金事業審査委員会 委員名簿（第3回支援決定時）

荒木 正	株式会社NTTドコモCSR部部长
小川 晶子	ライオンズクラブ国際協会FWTチーフ
菊池まゆみ	奈良可社会福祉協議会会長
草間 吉夫	東北福祉大学特任教授
出口 洋一	横浜市こども青少年局総務部長
西田 進	一般財団法人 アズビル山武財団専務理事
松村 淳子	京都府健康福祉部長
宮本みち子	放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授

子供の未来応援国民運動推進事務局 独立行政法人 福祉医療機構 NPOリソースセンター

第3回支援団体に寄り添って

社会全体で子供の貧困対策に取り組み、貧困の連鎖を解消するための仕組みとして「未来応援ネットワーク事業」が創設され、今回で3回目を迎えました。

未来応援ネットワーク事業の対象となる事業は、「様々な学びを支援する事業」、「居場所の提供・相談支援を行う事業」、「衣食住など生活の支援を行う事業」など多岐に渡ります。

第3回の事業では、例えば子供食堂であれば、食事の提供だけではなく学習支援もあわせて行うなど、地域の様々なニーズに対応するため、行政機関や地元企業等とネットワークを構築し、多様な活動を実施する団体が多くみられました。

多様化、複雑化する社会課題に取り組む団体が、その地域で成果の出る活動を行えるよう、私ども福祉医療機構でもその活動に寄り添うよう心がけてきました。

支援先団体の方からも「行政や地域の信頼を得ることができ、団体の活動が大きく前進しました」、「子供たちの権利を守っていく上でこの事業は必要不可欠です」等の声が直接届けられました。

この未来応援ネットワーク事業による支援の輪が地域で着実に広がっていることを実感するとともに、改めて子供の未来応援国民運動推進事務局の一員として、子育てや貧困を社会全体で支援していくための一助となれるよう気持ちを新たにしております。

今後も全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指して、支援団体の事業運営をきめ細やかにサポートしていきたいと考えています。